

公立高等学校配置計画

(令和3年度(2021年度)～5年度(2023年度))

令和2年(2020年)9月

北海道教育委員会

目 次

I	公立高等学校配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））の概要	2
5	地域連携特例校の再編整備の留保	3
6	配置計画の変更	3
II	公立高等学校配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））の内容	
1	中学校卒業生数	4
2	欠員の状況	4
3	定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4	配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））の学校別内訳	5
5	中学校卒業生数の推計及び推移	10
III	公立高等学校配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））学区別個表	
	空知南学区	12
	空知北学区	13
	石狩学区	14
	後志学区	16
	胆振西学区	17
	胆振東学区	18
	日高学区	19
	渡島学区	20
	檜山学区	21
	上川南学区	22
	上川北学区	23
	留萌学区	24
	宗谷学区	25
	オホーツク中学区	26
	オホーツク東学区	27
	オホーツク西学区	28
	十勝学区	29
	釧路学区	30
	根室学区	31

I 公立高等学校配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度）） 策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和3年度（2021年度）から令和5年度（2023年度）までの高校配置の計画を策定するとともに、令和6年度（2024年度）から令和9年度（2027年度）までの見通しを示したものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和3年（2021年）に4万1,004人、令和4年（2022年）に4万1,859人、令和5年（2023年）に4万1,200人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成30年（2018年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

(1) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

(3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(4) 地域連携特例校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、協力校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

4 配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））の概要

昨年決定した令和3年度（2021年度）及び令和4年度（2022年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和5年度（2023年度）の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 令和3年度（2021年度）（令和元年度（2019年度）決定）高校配置計画の変更 全日制課程

ア 学級増

令和2年度（2020年度）の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ、学級減を行った長沼高校など9校で、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ1学級の増を行う。

イ 学級減

1学級減とする江別高校の学科は、生徒の進路動向の変化を考慮し、普通科から事務情報科に変更する。

ウ 単位制の導入

滝川高校など4校で、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、単位制を導入する。

なお、北見緑陵高校は、普通科フィールド制から単位制に転換する。

エ 地域連携特例校の導入

教育環境の維持向上を図るため、新たに月形高校を地域連携特例校とする。

(3) 令和4年度（2022年度）（令和元年度（2019年度）決定）高校配置計画の変更 全日制課程

ア 理数科の設置

理数教育の充実を図るため、函館中部高校及び北見北斗高校で、普通科1学級を理数科に転換する。

イ その他専門学科の設置

札幌市において、市立札幌旭丘高校で、理数分野を中心とした幅広い教養と情報活用能力を併せ持つ創造的人材の育成を図るため、普通科2学級を、理数と情報に関するその他専門学科（名称検討中）に転換する。

ウ 普通科フィールド制の転換

生徒の特性や進路希望等を踏まえ、教育課程の工夫・改善を図るため、札幌丘珠高校及び野幌高校は普通科に、千歳北陽高校は総合学科に、それぞれ転換する。

〈新たな特色ある高校〉

野幌高校及び千歳北陽高校は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の育成に重点を置いた学校に位置付ける。

(4) 令和5年度（2023年度）高校配置計画

全日制課程

ア 学級減

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、小樽潮陵高校など6校で6学級の減を行う。

美幌高校を学級減する計画については、新型コロナウイルス感染症対策の影響に伴う地域の検討状況等を勘案し、令和3年度（2021年度）に決定する。

イ 再編整備

名寄市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、名寄高校及び名寄産業高校を再編し、新設校を設置する。

なお、新設校の学科や学級数、使用校舎は引き続き検討する。

また、中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率などを勘案し、留辺蘂高校を募集停止とする計画については、北見市内の高校配置に関する今後の地域における検討状況等を勘案するための期間を置き、令和3年度（2021年度）に決定する。

5 地域連携特例校の再編整備の留保

第1学年1学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は再編整備を進めることとしているが、こうした状況となっている月形高校、穂別高校、南茅部高校及び上ノ国高校は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案し、再編整備を留保する。

6 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(4)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

(1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合

(2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合

(3) 学級減と併せた学科転換、地域連携特例校の導入等を実施する場合

(4) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

II 公立高等学校配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））の内容

1 中学校卒業生数

令和2年(2020年)(実績)	42,496人	(対前年比 1,759人減少)
令和3年(2021年)(推計)	41,004人	(対前年比 1,492人減少)
令和4年(2022年)(推計)	41,859人	(対前年比 855人増加)
令和5年(2023年)(推計)	41,200人	(対前年比 659人減少)

2 欠員の状況

(令和2年(2020年)5月1日現在)

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
3,593人 (405人)	1,307人 (-9人)	825人 (-142人)	5,725人 (254人)

※ () は対前年増減

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計	
		全日制	定時制	中等教育学校				
令和2年度	定 員 (人)	31,330	2,320	240	720	11,257	45,867	
	割 合 (%)	73.7	5.5	0.6	1.7	26.5	107.9	
公立高等学校配置計画	令和3年度	学級増(人)	40	0	0	0	0	40
		学級減(人)	-600	-40	0	0	0	-640
		新設(人)	280	0	0	0	0	280
		募集停止(人)	-320	-40	0	0	0	-360
		差引増減(人)	-600	-80	0	0	0	-680
		定 員 (人)	30,730	2,240	240	720	11,257	45,187
	割 合 (%)	74.9	5.5	0.6	1.8	27.5	110.2	
令和4年度	学級増(人)	200	0	0	0	0	200	
	学級減(人)	0	0	0	0	0	0	
	新設(人)	0	0	0	0	0	0	
	募集停止(人)	0	0	0	0	0	0	
	差引増減(人)	200	0	0	0	0	200	
	定 員 (人)	30,930	2,240	240	720	11,257	45,387	
割 合 (%)	73.9	5.4	0.6	1.7	26.9	108.4		
令和5年度	学級増(人)	0	0	0	0	0	0	
	学級減(人)	(-280)	0	0	0	0	(-280)	
	新設(人)	0	0	0	0	0	0	
	募集停止(人)	(-40)	0	0	0	0	(-40)	
	差引増減(人)	(-320)	0	0	0	0	(-320)	
	定 員 (人)	(30,610)	2,240	240	720	11,257	(45,067)	
割 合 (%)	(74.3)	5.4	0.6	1.7	27.3	(109.4)		

※1 高等専門学校及び私立の定員については、令和3年度（2021年度）以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。

※3 えりも高校（えりも町立）は、1学級の定員を35人としている。

4 配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））の学校別内訳

◎ 令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度）高校配置計画／全日制課程

(1) 令和2年度（2020年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	R 2 (2020) 募集学級数	R 2 (2020) 開設学級数	R 3 (2021) 募集学級数
空 知 南	道	長 沼	全	普 通	2	1	2
空 知 北	道	砂 川	全	普 通	3	2	3
石 狩	道	札幌東豊	全	普 通	6	4	4
	道	札幌あすかぜ	全	普 通	7	6	6
	道	野 幌	全	普 通	4	3	3
	道	千歳北陽	全	普 通	5	4	4
後 志	道	岩 内	全	普 通	3	2	3
日 高	道	静 内	全	普 通	5	4	5
	道	浦 河	全	総 合	4	3	3
渡 島	道	森	全	総 合	2	1	2
上 川 南	道	美 瑛	全	普 通	2	1	2
オホーツク東	道	斜 里	全	総 合	2	1	1
十 勝	道	音 更	全	普 通	4	3	3
	道	清 水	全	総 合	4	3	3
	道	鹿 追	全	普 通	2	1	2
	道	大 樹	全	普 通	2	1	1
	道	本 別	全	普 通	2	1	2
釧 路	道	白 糠	全	普 通	2	1	1
	道	標 茶	全	総 合	3	2	2
根 室	道	標 津	全	普 通	2	1	2
胆 振 西	道	伊達緑丘	全	普 通	4	3	伊達と再編
計		21校					

(2) 学級増減

① 学級増（学科名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	空 知 南	道	※長 沼	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	空 知 北	道	※砂 川	全	普 通	2	3	+1	2学級→3学級
	石 狩	道	札幌真栄	全	普 通	4	5	+1	4学級→5学級
	後 志	道	※岩 内	全	普 通	2	3	+1	3学級→4学級
	日 高	道	※静 内	全	普 通	4	5	+1	4学級→5学級
	渡 島	道	※森	全	総 合	1	2	+1	1学級→2学級
	上 川 南	道	※美 瑛	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	十 勝	道	※鹿 追	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
		道	※本 別	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
根 室	道	※標 津	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級	
(小計)			10校					+10	
R 4 (2022)	石 狩	道	札幌月寒	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌北陵	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌手稲	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌丘珠	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
	(小計)		5校					+5	
R 5 (2023)	-								
計			15校					+15 (+600)	

② 学級減（学科名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数	
						実施前	実施後			
R 3 (2021)	空 知 北	道	滝 川	全	普 通	5	4	-1	6 学級→5 学級	
		石 狩	道	札幌東陵	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
			道	札幌英藍	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
			道	江 別	全	※事務情報	2	1	-1	8 学級→7 学級
			道	北 広 島	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
			市	市立札幌藻岩	全	普 通	8	6	-2	8 学級→6 学級
	胆 振 西	道	登別青嶺	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級	
	胆 振 東	道	苫小牧総合経済	全	流通経済	2	1	-1	4 学級→3 学級	
	渡 島	道	函館中部	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
		上 川 南	道	旭川西	全	普 通	5	4	-1	6 学級→5 学級
	道		旭川商業	全	情報処理	2	1	-1	6 学級→5 学級	
	オホーツク中	道	北見緑陵	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級	
	十 勝	道	帯広柏葉	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級	
根 室	道	中 標 津	全	商業(大学科)	2	1	-1	6 学級→5 学級		
(小計)		14校						-15		
R 4 (2022)	-									
R 5 (2023)	後 志	道	小樽潮陵	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
	胆 振 西	道	室 蘭 栄	全	普 通	4	3	-1	6 学級→5 学級	
		市	市立函館	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
	上 川 南	道	旭川北	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
		道	旭川南	全	総 合	6	5	-1	6 学級→5 学級	
		道	旭川永嶺	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
	オホーツク中	道	〔美 幌〕	全	(検討中)	(検討中)		-1	4 学級→3 学級	
(小計)		(7校)						(-7)		
計		(21校)						〔-22〕 〔-880〕		

- ・ R 3 (2021) の中標津については、「(5) 職業学科の学科転換」を参照。
- ・ R 5 (2023) の美幌については、新型コロナウイルス感染症対策の影響に伴う地域の検討状況等を勘案し、令和3年度(2021年度)に決定する。

(3) 再編整備

① 再編統合等

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	胆 振 西	道	伊 達	全	普 通	3	0	-3	3 学級→0 学級
		道	伊達緑丘	全	普 通	3	0	-3	3 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	普 通	0	6	+6	6 学級 伊達校舎を使用
	(小計)		再編等に伴う募集停止2校、新設1校						±0(6学級の減、新設校で6学級の増)
R 4 (2022)	-								
R 5 (2023)	上 川 北	道	名 寄	全	普 通	3	0	-3	3 学級→0 学級
		道	名 寄 産 業	全	生活文化	1	0	-1	3 学級→0 学級
				全	機械・建築システム	1	0	-1	
				全	酪農科学	1	0	-1	
	道	新 設 校	全	(検討中)	0	(検討中)		学級数・使用校舎検討中	
(小計)		再編等に伴う募集停止2校、新設1校						(6学級の減、新設校の学級数は検討中)	
計		再編等に伴う募集停止4校、新設2校							

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	空 知 南	道	南 幌	全	普 通	1	0	- 1	1学級→0学級
R 4 (2022)	-								
R 5 (2023)	オホーツク中	道	〔留 辺 薬	全	総 合	1	0	- 1	1学級→0学級〕
計		(2校)						〔 - 2 (- 8 0) 〕	

・ R 5 (2023) の留辺薬については、北見市内の高校配置に関する今後の地域における検討状況等を勘案するための期間を置き、令和3年度(2021年度)に決定する。

(4) 再編整備・移管

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	オホーツク東	道	女 満 別	全	普 通	1	0	- 1	1学級→0学級
		町	東 藻 琴	定	生産科学	[1]	[0]	[- 1]	[1学級→0学級]
		町	新 設 校	全	総 合	0	1	+ 1	1学級 移管予定の女満別及び 東藻琴の校舎を使用
R 4 (2022)	-								
R 5 (2023)	-								
計		再編等に伴う募集停止2校、新設1校						± 0 (± 0)	

・ R 3 (2021) の東藻琴については、「◎令和3年度(2021年度)～5年度(2023年度)高校配置計画/定時制課程」を参照。

(5) 職業学科の学科転換(再編によるものを除く)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	根 室	道	中 標 津	全	商 業	1	0	- 1	(再掲) 1学年総学級数 6学級→5学級
					事 務 情 報	1	0	- 1	
					総合ビジネス	0	1	+ 1	
(小計)		1校						- 1	
R 4 (2022)	-								
R 5 (2023)	-								
計		1校						- 1 (- 4 0)	

(6) 理数科の設置（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	-								
R 4 (2022)	渡 島 道		※函館中部	全	普 通	5	4	- 1	
					理 数	0	1	+ 1	
	オホーツク中道		※北見北斗	全	普 通	6	5	- 1	
					理 数	0	1	+ 1	
R 5 (2023)	-								
計			2校					± 0 (± 0)	

(7) その他専門学科の設置（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	-								
R 4 (2022)	石 狩 市		※市立札幌旭丘	全	普 通	8	6	- 2	理数と情報に関する その他専門学科
					(検討中)	0	2	+ 2	
R 5 (2023)	-								
計			1校					± 0 (± 0)	

(8) 総合学科の設置（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	オホーツク東 町		新 設 校	全	綜 合	-	1	-	(再掲) 女満別・東藻琴の再編
R 4 (2022)	石 狩 道		※千歳北陽	全	普 通	4	0	- 4	
					綜 合	0	4	+ 4	
R 5 (2023)	-								
計			2校					± 0 (± 0)	

(9) 単位制の導入（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数	摘 要		
R 3 (2021)	空 知 北 道		※滝 川	全	普 通	4			
					理 数	1			
	石 狩 市	道	市立札幌藻岩	全	普 通	6			
					新 設 校	全		普 通	6
	胆 振 西 道		※登別青嶺	全	普 通	3			
					普 通	3			
上 川 南 道		※旭川西	全	普 通	4				
				理 数	1				
オホーツク中道		※北見緑陵	全	普 通	3	フィールド制の転換			
(小計)			6校						
R 4 (2022)	釧 路 市		釧 路 北 陽	全	普 通	5	フィールド制の転換		
R 5 (2023)	-								
計			7校						

(10) 普通科フィールド制の転換・新たな特色ある高校

(学校名の前の※印は、令和元年度(2019年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	摘 要
R 3 (2021)	オホーツク中	道	※北見緑陵	全	3	(再掲) 単位制を導入
R 4 (2022)	石 狩	道	※札幌丘珠	全	8	普通科に転換
		道	※野 幌	全	3	新たな特色ある高校に位置付け 普通科に転換
		道	※千歳北陽	全	4	新たな特色ある高校に位置付け (再掲) 総合学科に転換
	釧 路 市	釧 路 北 陽	全	5	(再掲) 単位制を導入	
	(小計)		4校			
R 5 (2023)	-					
	計		5校			

(11) 地域連携特例校の導入(学校名の前の※印は、令和元年度(2019年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	協 力 校	摘 要
R 3 (2021)	空 知 南	道	※月 形	全	普 通	岩見沢東	
R 4 (2022)	-						
R 5 (2023)	-						
	計		1校			1校	

◎ 令和3年度(2021年度)～5年度(2023年度)高校配置計画/定時制課程

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 3 (2021)	胆 振 東	道	苫小牧工業	定	機 械	1	0	-1	2学級→1学級
					建 築	1	0	-1	
					工業技術	0	1	+1	
	オホーツク東	町	東 藻 琴	定	生産科学	1	0	-1	(再掲) 女満別(全日制)と再編 1学級→0学級
	(小計)		2校					-2	
R 4 (2022)	-								
R 5 (2023)	-								
	計		2校					-2 (-80)	

5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（令和2年(2020年)推計）

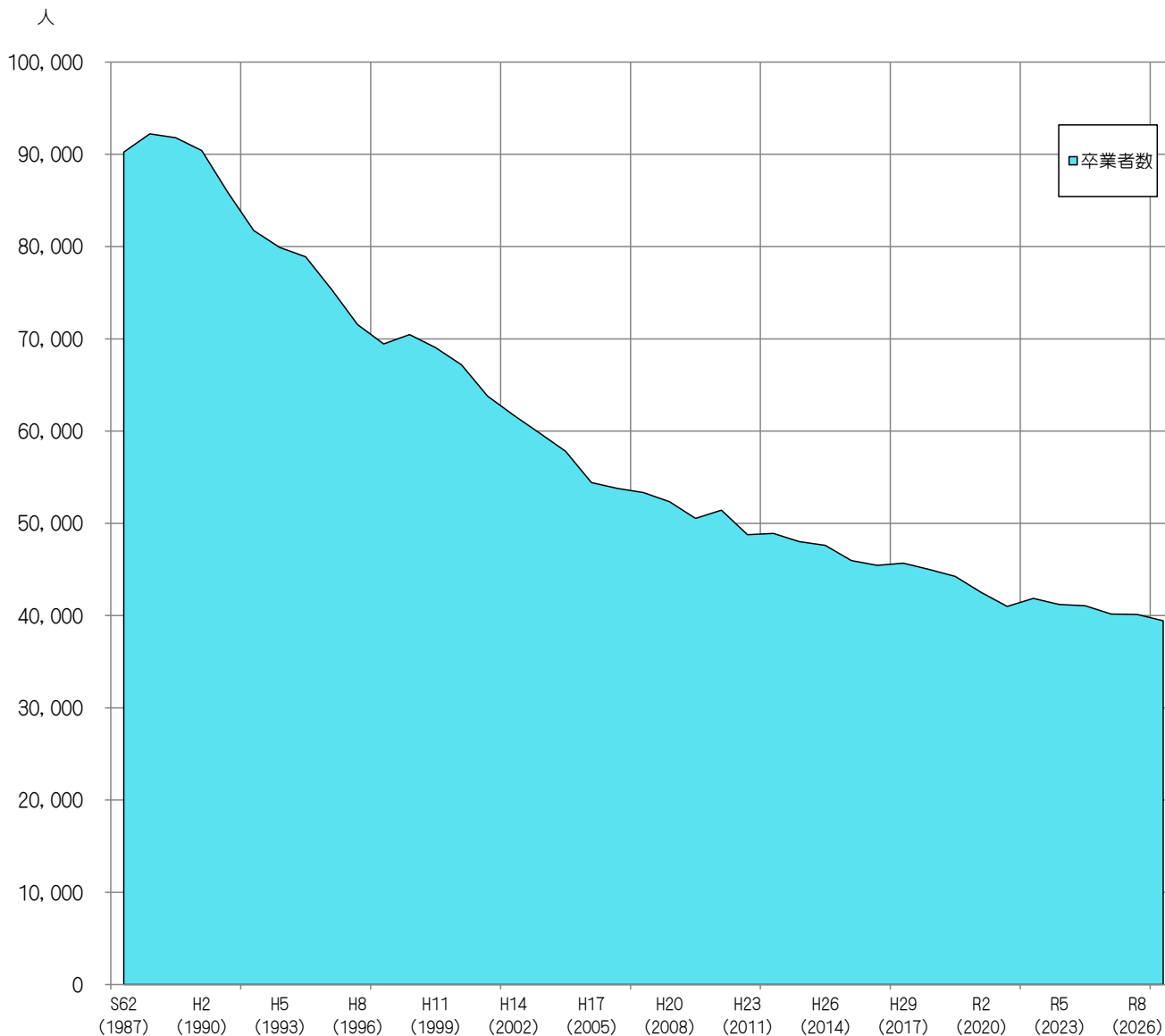
	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)
空知南	1,135	1,125 ▲10	1,090 ▲35	1,107 +17	1,001 ▲106	1,056 +55	1,037 ▲19	1,024 ▲13
空知北	927	851 ▲76	897 +46	864 ▲33	829 ▲35	807 ▲22	809 +2	757 ▲52
石狩	19,110	18,742 ▲368	19,349 +607	19,404 +55	19,529 +125	19,324 ▲205	19,494 +170	19,145 ▲349
後志	1,454	1,421 ▲33	1,429 +8	1,406 ▲23	1,363 ▲43	1,368 +5	1,339 ▲29	1,304 ▲35
胆振西	1,486	1,364 ▲122	1,390 +26	1,350 ▲40	1,325 ▲25	1,220 ▲105	1,199 ▲21	1,200 +1
胆振東	1,808	1,700 ▲108	1,747 +47	1,669 ▲78	1,693 +24	1,690 ▲3	1,674 ▲16	1,617 ▲57
日高	514	509 ▲5	550 +41	503 ▲47	491 ▲12	468 ▲23	479 +11	456 ▲23
渡島	3,125	2,963 ▲162	2,983 +20	2,781 ▲202	2,939 +158	2,767 ▲172	2,659 ▲108	2,699 +40
檜山	245	243 ▲2	226 ▲17	221 ▲5	189 ▲32	203 +14	214 +11	199 ▲15
上川南	3,597	3,433 ▲164	3,500 +67	3,337 ▲163	3,312 ▲25	3,213 ▲99	3,196 ▲17	3,173 ▲23
上川北	470	467 ▲3	474 +7	454 ▲20	431 ▲23	430 ▲1	395 ▲35	401 +6
留萌	331	301 ▲30	289 ▲12	307 +18	280 ▲27	273 ▲7	300 +27	262 ▲38
宗谷	512	504 ▲8	500 ▲4	464 ▲36	450 ▲14	427 ▲23	405 ▲22	391 ▲14
オホーツク中	1,235	1,131 ▲104	1,171 +40	1,142 ▲29	1,187 +45	1,102 ▲85	1,172 +70	1,055 ▲117
オホーツク東	503	510 +7	494 ▲16	439 ▲55	500 +61	464 ▲36	466 +2	482 +16
オホーツク西	476	456 ▲20	431 ▲25	425 ▲6	399 ▲26	397 ▲2	416 +19	413 ▲3
十勝	2,960	2,862 ▲98	2,851 ▲11	2,889 +38	2,862 ▲27	2,758 ▲104	2,748 ▲10	2,760 +12
釧路	1,878	1,769 ▲109	1,815 +46	1,790 ▲25	1,657 ▲133	1,627 ▲30	1,585 ▲42	1,522 ▲63
根室	730	653 ▲77	673 +20	648 ▲25	619 ▲29	585 ▲34	541 ▲44	588 +47
合計	42,496	41,004 ▲1,492	41,859 +855	41,200 ▲659	41,056 ▲144	40,179 ▲877	40,128 ▲51	39,448 ▲680

※中学校卒業生数は、令和2年(2020年)5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和2年(2020年)は実数、令和3年(2021年)以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移 （昭和62年（1987年）～令和9年（2027年））

（注） 1 昭和62年（1987年）～令和2年（2020年）は実卒業者数である。
 2 令和3年（2021年）～令和9年（2027年）は学校基本調査（令和2年（2020年）5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62 (1987)	S63 (1988)	H元 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
卒業生数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047
増減	+1,298	+1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	+1,021	-1,415

年	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)
卒業生数	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907
増減	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	+900	-2,659	+129

年	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
卒業生数	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,496	41,004	41,859	41,200	41,056	40,179
増減	-892	-395	-1,662	-500	+231	-700	-734	-1,759	-1,492	+855	-659	-144	-877

年	R8 (2026)	R9 (2027)
卒業生数	40,128	39,448
増減	-51	-680

Ⅲ 公立高等学校配置計画（令和3年度（2021年度）～5年度（2023年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画											
区 分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減	
学区内中卒者数	1,135	1,125	1,090	1,107	1,001	1,056	1,037	1,024	▲ 111	▲ 83	
対前年増減		▲ 10	▲ 35	+ 17	▲ 106	+ 55	▲ 19	▲ 13			
岩見沢市中卒者数	(640)	(621)	(634)	(612)	(589)	(579)	(608)	(601)	▲ 39	▲ 11	
対前年増減		▲ 19	+ 13	▲ 22	▲ 23	▲ 10	+ 29	▲ 7			
美唄市中卒者数	(122)	(138)	(131)	(130)	(112)	(127)	(110)	(94)	▲ 28	▲ 36	
対前年増減		+ 16	▲ 7	▲ 1	▲ 18	+ 15	▲ 17	▲ 16			
三笠市中卒者数	(49)	(61)	(54)	(40)	(43)	(46)	(49)	(33)	▲ 16	▲ 7	
対前年増減		+ 12	▲ 7	▲ 14	+ 3	+ 3	+ 3	▲ 16			
夕張市中卒者数	(38)	(32)	(32)	(36)	(34)	(31)	(24)	(35)	▲ 3	▲ 1	
対前年増減		▲ 6	± 0	+ 4	▲ 2	▲ 3	▲ 7	+ 11			
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
岩見沢東	5		5	17				○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮して、岩見沢市内において再編整備を含めた公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		月形、夕張の協力校	
単 岩見沢西	3		3	17							
岩見沢農業		農 7	7	62							
*岩見沢緑陵	3	商 2	5	5							
総 美唄尚米	2		2	28							
美唄聖華		看 2	2	20							
*三 笠		家 1	1	3							
月 形	1		1	25	地域連携特別校 導入(計画変更)						再編整備留保
地 夕 張	1		1	19							
長 沼	2→1		1	7	普+1 (計画変更)						R 2入選 2次募集後 学級減
栗 山	2		2	26							
南 幌	1		1	33	普▲1						
12校	20 →19	12	31	262	普+1 普▲1						

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携特別校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 ()は定時制課程(計欄には含まない、関係学校のみ表示)。(以下同)

注5 令和2年度(2020年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

注6 「令和6～9年度(2024～2027年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和9年(2027年)と令和5年(2023年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

空知北学区高校配置計画

区 分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～2027) 年までの増減	令和6～9 (2024～2027) 年までの増減
学区内中卒者数	927	851	897	864	829	807	809	757	▲ 170	▲ 107
対前年増減		▲ 76	+ 46	▲ 33	▲ 35	▲ 22	+ 2	▲ 52		
滝川市中卒者数	(304)	(278)	(317)	(300)	(273)	(287)	(282)	(294)	▲ 10	▲ 6
対前年増減		▲ 26	+ 39	▲ 17	▲ 27	+ 14	▲ 5	+ 12		
砂川市中卒者数	(132)	(128)	(119)	(121)	(122)	(110)	(107)	(87)	▲ 45	▲ 34
対前年増減		▲ 4	▲ 9	+ 2	+ 1	▲ 12	▲ 3	▲ 20		
歌志内市中卒者数	(23)	(13)	(18)	(15)	(13)	(10)	(6)	(10)	▲ 13	▲ 5
対前年増減		▲ 10	+ 5	▲ 3	▲ 2	▲ 3	▲ 4	+ 4		
芦別市中卒者数	(72)	(78)	(73)	(55)	(63)	(58)	(54)	(50)	▲ 22	▲ 5
対前年増減		+ 6	▲ 5	▲ 18	+ 8	▲ 5	▲ 4	▲ 4		
赤平市中卒者数	(54)	(45)	(60)	(63)	(50)	(49)	(44)	(45)	▲ 9	▲ 18
対前年増減		▲ 9	+ 15	+ 3	▲ 13	▲ 1	▲ 5	+ 1		
深川市中卒者数	(144)	(123)	(123)	(125)	(116)	(113)	(120)	(102)	▲ 42	▲ 23
対前年増減		▲ 21	± 0	+ 2	▲ 9	▲ 3	+ 7	▲ 18		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
滝川	6		6	11	普▲1 単位制導入 (計画変更)			○4年間で2～3学級相当の調整が必要		
滝川工業		工 2	2	43				○欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校・学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要		
*滝川西	3	商 3	6	3				○滝川市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、公立高校全体での再編を含めた早急な定員調整の検討が必要		
単 砂川	3→2		2	13	普+1 (計画変更)			○深川市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要	R 2 入選 2次募集後 学級減	
奈井江商業		商 1	1	19				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
新十津川農業		農 1	1	10				○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要(滝川)		
芦別	2		2	23						
深川西	3		3	20						
深川東		農 1 商 1	2	52						
9校	17 →16	9	25	194	普+1 普▲1					

石狩学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	19,110	18,742	19,349	19,404	19,529	19,324	19,494	19,145		
対前年増減		▲ 368	+ 607	+ 55	+ 125	▲ 205	+ 170	▲ 349	+ 35	▲ 259
札幌市中卒者数	(15,044)	(14,843)	(15,263)	(15,452)	(15,486)	(15,418)	(15,607)	(15,246)		
対前年増減		▲ 201	+ 420	+ 189	+ 34	▲ 68	+ 189	▲ 361	+ 202	▲ 206
江別市中卒者数	(1,176)	(1,144)	(1,215)	(1,137)	(1,207)	(1,157)	(1,268)	(1,269)		
対前年増減		▲ 32	+ 71	▲ 78	+ 70	▲ 50	+ 111	+ 1	+ 93	+ 132
千歳市中卒者数	(859)	(886)	(893)	(855)	(900)	(836)	(810)	(798)		
対前年増減		+ 27	+ 7	▲ 38	+ 45	▲ 64	▲ 26	▲ 12	▲ 61	▲ 57
恵庭市中卒者数	(635)	(614)	(659)	(690)	(662)	(675)	(658)	(662)		
対前年増減		▲ 21	+ 45	+ 31	▲ 28	+ 13	▲ 17	+ 4	+ 27	▲ 28
北広島市中卒者数	(642)	(587)	(616)	(626)	(588)	(635)	(576)	(600)		
対前年増減		▲ 55	+ 29	+ 10	▲ 38	+ 47	▲ 59	+ 24	▲ 42	▲ 26
石狩市中卒者数	(611)	(541)	(555)	(526)	(553)	(480)	(477)	(469)		
対前年増減		▲ 70	+ 14	▲ 29	+ 27	▲ 73	▲ 3	▲ 8	▲ 142	▲ 57
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度 (2024～2027年度) までの見直し	摘要	
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	0				○4年間で4～5学級相当の調整が必要 ○各区、市町村ごとの中卒者数の状況、欠員の状況やこれまでの調整などを考慮した定員調整の検討が必要 ○札幌市内については、中卒者数の減にあわせて、生徒急増期に新設した高校を中心とした再編を含め、公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
札幌西	8		8	-4						
札幌南	8		8	-2						
札幌北	8		8	-2						
札幌月寒	7		7	0	普+1					
札幌啓成	8		8	0						
札幌北陵	7		7	0	普+1					
単 札幌手稲	7		7	0	普+1					
フ 札幌丘珠	7		7	-1	普+1 〔フィールド制転換〕 (計画変更)					
札幌西陵	7		7	28						
単 札幌白石	7		7	-1						
単 札幌東陵	8		8	17	普▲1					
札幌南陵	4		4	24						
札幌東豊	6→4		4	27					R 2 入選 2次募集後学級減	
総 札幌厚別	7		7	-1						
札幌真栄	4		4	4	普+1					
フ 札幌あすかぜ	7→6		6	28					R 2 入選 2次募集後学級減	
札幌稲雲	7		7	0						
フ 札幌平岡	6		6	0						
単 札幌英藍	8		8	0	普▲1					

学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4		4	19					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	0				
江 別	5	商 家	2 1	8	0	商▲1 (計画変更)			
フ 野 幌	4→3		3	20		新たな 特色ある高校 〔フィールド制転換〕 (計画変更)			R2入選 2次募集後 学級減
単 大 麻	7		7	0					
千 歳	6	商	2	8	7				
フ 千歳北陽	5→4		4	18		普▲4 総+4 新たな 特色ある高校 〔フィールド制転換〕 (計画変更)			R2入選 2次募集後 学級減
単 北 広 島	8		8	-1	普▲1				
北広島西	7		7	39					
石 狩 南	7		7	0					
当 別	2	農 家	1 1	4	74				
恵 庭 南	7		7	3					
恵 庭 北	7		7	26		普+1			
札幌工業		工	8	8	10				
札幌琴似工業		工	8	8	9				
札幌東商業		商	8	8	20				
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *市立札幌旭丘	8		8	-4		普▲2 (学科名検討中)+2 (計画変更)			理数と情報に関するその 他専門学科に一部学科転 換
*市立札幌藻岩	8		8	-1	普▲2 単位制導入				
*市立札幌平岸	8		8	-1					
単 *市立札幌清田	6		6	-1					
中 等									
*市立札幌開成	4		4	5					コスモサイエンス科単位制
*市立札幌新川	8		8	-2					
*市立札幌啓北商業		商	6	6	-1				
44校	262→ 257	41	298	356	普▲5 商▲1 普+1	普+5 普▲6 総+4 (学科名検討中)+2			

後志学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	1,454	1,421	1,429	1,406	1,363	1,368	1,339	1,304	▲ 150	▲ 102
対前年増減		▲ 33	+ 8	▲ 23	▲ 43	+ 5	▲ 29	▲ 35		
小樽市中卒者数	(762)	(783)	(769)	(729)	(715)	(705)	(676)	(685)	▲ 77	▲ 44
対前年増減		+ 21	▲ 14	▲ 40	▲ 14	▲ 10	▲ 29	+ 9		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	6		6	0			普▲1	○4年間で1～2学級相当の調整が必要		
単 小樽桜陽	5		5	-1				○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内において定員調整の検討が必要		
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	37				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
小樽水産		水 4	4	0				○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要 (小樽潮陵、小樽未来創造)		
総 余市紅志	2		2	38						
単 岩 内	3→2	商 1	3	37	普+1 (計画変更)					寿部の協力校 R 2入選 2次募集後 学級減
地 寿 部	1		1	13						
単 倶知安	4		4	34						蘭越の協力校
地 蘭 越	1		1	27						再編整備留保
倶知安農業		農 1	1	17						
10校	22 →21	10	31	202	普+1		普▲1			

胆振西学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減	
学区内中卒者数	1,486	1,364	1,390	1,350	1,325	1,220	1,199	1,200	▲ 286	▲ 150	
対前年増減		▲ 122	+ 26	▲ 40	▲ 25	▲ 105	▲ 21	+ 1			
室蘭市中卒者数	(631)	(603)	(548)	(540)	(561)	(520)	(518)	(537)	▲ 94	▲ 3	
対前年増減		▲ 28	▲ 55	▲ 8	+ 21	▲ 41	▲ 2	+ 19			
登別市中卒者数	(423)	(397)	(436)	(424)	(400)	(354)	(359)	(345)	▲ 78	▲ 79	
対前年増減		▲ 26	+ 39	▲ 12	▲ 24	▲ 46	+ 5	▲ 14			
伊達市中卒者数	(311)	(262)	(279)	(283)	(273)	(254)	(221)	(232)	▲ 79	▲ 51	
対前年増減		▲ 49	+ 17	+ 4	▲ 10	▲ 19	▲ 33	+ 11			
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
室蘭栄	6		6	0			普▲1	○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置 状況を考慮し、室蘭市内において再編整備 を含めた定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要			
単 室蘭清水丘	4		4	0							
総 室蘭東翔	4		4	0							
室蘭工業		工 4	4	44							
登別青嶺	4		4	22	普▲1 単位制導入 (計画変更)						
中 登別明日	2		2	8							
伊 達	3		3	30	普▲3						
伊達緑丘	4→3		3	11	普▲3						
新設校					普+6 単位制導入						
地 虻 田		商 1	1	24							虻田の協力校
*壮 警		農 1	1	15					R 2 入選 2次募集後 学級減		
10校	27 →26	6	32	154	普▲7 普+6		普▲1		伊達校舎を使用 再編整備留保		

胆振東学区高校配置計画

胆振東学区高校配置計画											
区 分		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数		1,808	1,700	1,747	1,669	1,693	1,690	1,674	1,617	▲ 191	▲ 52
対前年増減			▲ 108	+ 47	▲ 78	+ 24	▲ 3	▲ 16	▲ 57		
苫小牧市中卒者数		(1,552)	(1,452)	(1,496)	(1,459)	(1,483)	(1,447)	(1,449)	(1,434)	▲ 118	▲ 25
対前年増減			▲ 100	+ 44	▲ 37	+ 24	▲ 36	+ 2	▲ 15		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計								
苫小牧東	6		6	-1				○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や学校・学科の配置状況を考慮し、苫小牧市内及び苫小牧市周辺町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要			厚真の協力校
苫小牧西	4		4	0			穂別の協力校				
単 苫小牧南	4		4	19							
苫小牧工業		工 6	6	0							
(苫小牧工業)		(工2)	(2)	(53)	[工▲1]						
苫小牧総合経済		商 4	4	17	商▲1						
白老東	2		2	8							
地 厚 真	1		1	6							
地 穂 別	1		1	30			再編整備留保				
追 分	1		1	8							
中高 鶴 川	2		2	32							
10校	21	10	31	119	商▲1 [工▲1]						

日高学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	514	509	550	503	491	468	479	456	▲ 58	▲ 47
対前年増減		▲ 5	+ 41	▲ 47	▲ 12	▲ 23	+ 11	▲ 23		
浦河町中卒者数	(100)	(97)	(90)	(90)	(95)	(72)	(91)	(67)	▲ 33	▲ 23
対前年増減		▲ 3	▲ 7	± 0	+ 5	▲ 23	+ 19	▲ 24		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 静 内	5→4		4	6	普+1 (計画変更)				<ul style="list-style-type: none"> ○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要 ○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を助産した上で、再編整備の留保の検討が必要 	平取の協力校 R 2 入選 2次募集後 学級減
静内農業		農 2	2	39						
富 川	1		1	16						
地 平 取	1		1	21						
総 浦 河	4→3		3	22						
中高 *えりも	2		2	46						
6校	13 →11	2	13	150	普+1					

渡島学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	3,125	2,963	2,983	2,781	2,939	2,767	2,659	2,699	▲ 426	▲ 82
対前年増減		▲ 162	+ 20	▲ 202	+ 158	▲ 172	▲ 108	+ 40		
函館市中卒者数	(1,972)	(1,858)	(1,921)	(1,778)	(1,898)	(1,784)	(1,738)	(1,755)	▲ 217	▲ 23
対前年増減		▲ 114	+ 63	▲ 143	+ 120	▲ 114	▲ 46	+ 17		
北斗市中卒者数	(446)	(432)	(452)	(421)	(449)	(396)	(364)	(381)	▲ 65	▲ 40
対前年増減		▲ 14	+ 20	▲ 31	+ 28	▲ 53	▲ 32	+ 17		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度 (2024～2027年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
函館中部	6		6	-1	普▲1	普▲1 理+1 (計画変更)		○4年間で1～2学級相当の調整が必要		南茅部の協力校
単 函館西	6		6	0				○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内において、定員調整の検討が必要		松前の協力校
単 *市立函館	6		6	0		普▲1		○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学校・学科の配置の在り方も含め、北斗市内において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要		
函館水産		水 4	4	20				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
函館商業		商 4	4	1				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		福島商業の協力校
函館工業		工 5	5	0				○地域連携特別校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要 また、再編整備が留保された場合にあっては、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要		再編整備留保
地 南茅部	1		1	26						
上 磯	1		1	22						
七 飯	3		3	1						
大野農業		農 3	3	47						
地 松 前	1		1	26						
*知 内	2		2	7						
地 福島商業		商 1	1	32						再編整備留保
八 雲	2	商 1	3	45						長万部の協力校
総 森	2→1		1	4	総+1 (計画変更)					R 2入選 2次募集後 学級減
地 長万部	1		1	20						
16校	31→ 30	18	48	250	普▲1 総+1	普▲1 理+1	普▲1			

檜山学区高校配置計画

区 分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	245	243	226	221	189	203	214	199	▲ 46	▲ 22
対前年増減		▲ 2	▲ 17	▲ 5	▲ 32	+ 14	+ 11	▲ 15		
江差町中卒者数	(56)	(52)	(44)	(57)	(42)	(38)	(35)	(32)	▲ 24	▲ 25
対前年増減		▲ 4	▲ 8	+ 13	▲ 15	▲ 4	▲ 3	▲ 3		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度 (2024～2027年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
単 江 差	3		3	30				○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	上ノ国の協力校	
地 上ノ国	1		1	23					再編整備留保	
総 檜 山 北	2		2	32						
中高 *奥 尻	1		1	9						
4校	7	0	7	94						

上川南学区高校配置計画

区 分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	3,597	3,433	3,500	3,337	3,312	3,213	3,196	3,173	▲ 424	▲ 164
対前年増減		▲ 164	+ 67	▲ 163	▲ 25	▲ 99	▲ 17	▲ 23		
旭川市中卒者数	(2,730)	(2,620)	(2,717)	(2,562)	(2,569)	(2,486)	(2,444)	(2,449)	▲ 281	▲ 113
対前年増減		▲ 110	+ 97	▲ 155	+ 7	▲ 83	▲ 42	+ 5		
富良野市中卒者数	(186)	(167)	(166)	(159)	(160)	(138)	(168)	(151)	▲ 35	▲ 8
対前年増減		▲ 19	▲ 1	▲ 7	+ 1	▲ 22	+ 30	▲ 17		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度 (2024～2027年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
旭川東	6		6	0				○4年間で2～3学級相当の調整が必要		
旭川西	6		6	0	普▲1 単位制導入 (計画変更)			○中卒者数やこれまでの調整などを考慮し、旭川市内や旭川市周辺町及び富良野市や富良野市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要		
単 旭川北	6		6	-2		普▲1		○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
総 旭川南	6		6	0		総▲1		○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特別校の導入の検討が必要		
単 旭川永嶺	6		6	-2		普▲1		○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要(旭川商業)		
旭川商業		商 6	6	0	商▲1					
旭川工業		工 6	6	1						
旭川農業		農 4	4	2						
鷹 栖	1		1	0						
東 川	2		2	0						
美 瑛	2→1		1	4	普+1 (計画変更)					R 2入選 2次募集後 学級減
中高 上 川	1		1	22						
単 富良野	4		4	24						
富良野緑峰		商 1 農 1 工 1	3	51						
上富良野	1		1	9						
*南富良野	1		1	27						
16校	42→ 41	19	60	136	普▲1 商▲1 普+1		普▲2 総▲1			

上川北学区高校配置計画

区 分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	470	467	474	454	431	430	395	401	▲ 69	▲ 53
対前年増減		▲ 3	+ 7	▲ 20	▲ 23	▲ 1	▲ 35	+ 6		
士別市中卒者数	(138)	(143)	(135)	(145)	(118)	(127)	(112)	(115)	▲ 23	▲ 30
対前年増減		+ 5	▲ 8	+ 10	▲ 27	+ 9	▲ 15	+ 3		
名寄市中卒者数	(207)	(184)	(228)	(201)	(202)	(184)	(174)	(190)	▲ 17	▲ 11
対前年増減		▲ 23	+ 44	▲ 27	+ 1	▲ 18	▲ 10	+ 16		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見直し		摘要
	普通	職業	計							
士別翔雲	3	商 1	4	41				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、 学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要	下川商業の協力校	
地 下川商業		商 1	1	4						
名 寄	3		3	26			普▲3		美深の協力校	
産 名寄産業		工 1 農 1 家 1	3	63			工▲1 農▲1 家▲1			
新 設 校							(学科、学級数等 検討中)			
地 美 深	1		1	11						
総 *剣 淵	1		1	23						
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	0						
T校	9	5	14	168			普▲3 工▲1 農▲1 家▲1 (新設校:検討中)			

留萌学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	331	301	289	307	280	273	300	262	▲ 69	▲ 45
対前年増減		▲ 30	▲ 12	+ 18	▲ 27	▲ 7	+ 27	▲ 38		
留萌市中卒者数	(142)	(161)	(136)	(145)	(124)	(124)	(123)	(125)	▲ 17	▲ 20
対前年増減		+ 19	▲ 25	+ 9	▲ 21	± 0	▲ 1	+ 2		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単留萌	4	工 1 商 1	6	63				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整 の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要	苫前商業の協力校 普通科単位制	
羽幌	2		2	29						
地苫前商業		商 1	1	27					再編整備留保	
天塩	2		2	37						
遠別農業		農 1	1	20						
5校	8	4	12	176						

宗谷学区高校配置計画

区 分		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数		512	504	500	464	450	427	405	391	▲ 121	▲ 73
対前年増減			▲ 8	▲ 4	▲ 36	▲ 14	▲ 23	▲ 22	▲ 14		
稚内市中卒者数		(273)	(264)	(269)	(240)	(229)	(229)	(224)	(208)	▲ 65	▲ 32
対前年増減			▲ 9	+ 5	▲ 29	▲ 11	± 0	▲ 5	▲ 16		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計								
単 稚 内	3	商 1 看 1	5	31				<ul style="list-style-type: none"> ○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、中卒者数も考慮し、学科の見直しや定員調整などについて早急な検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要(稚内) 			豊富な協力校 普通科・商業科単位制
地 豊 富	1		1	19							
浜 頓 別	1		1	12							
枝 幸	2		2	28							
利 尻	1	商 1	2	58							
礼 文	1		1	19							
6校	9	3	12	167							

オホーツク中学区高校配置計画

区 分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	1,235	1,131	1,171	1,142	1,187	1,102	1,172	1,055	▲ 180	▲ 87
対前年増減		▲ 104	+ 40	▲ 29	+ 45	▲ 85	+ 70	▲ 117		
北見市中卒者数	(938)	(865)	(877)	(910)	(923)	(838)	(888)	(805)	▲ 133	▲ 105
対前年増減		▲ 73	+ 12	+ 33	+ 13	▲ 85	+ 50	▲ 83		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計	R 2 (2020) 欠員						
北見北斗	6		6	2		普▲1 理+1 (計画変更)			○4年間で1～2学級相当の調整が必要	常呂の協力校
単 北見柏陽	5		5	6					○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内で再編を含めた定員調整の検討が必要	佐呂間の協力校
フ 北見緑陵	4		4	0	普▲1 単位制導入 [フィールド制転換] (計画変更)				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	
北見工業		工 3	3	28					○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要	
北見商業		商 3	3	0					また、再編整備が留保された場合であっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要	再編整備留保
置 戸		福 1	1	30						
総 留 辺 薬	1		1	26					(総▲1)	
地 佐 呂 間	1		1	28						
地 常 呂	1		1	34						再編整備留保
訓 子 府	1		1	20						
地 津 別	1		1	16						
美 幌	2	農 2	4	95					(▲1 (学科検討中))	津別の協力校
12校	22	9	31	285	普▲1	普▲1 理+1			(総▲1) (学科検討中▲1)	

※留辺薬については、北見市内の高校配置に関する今後の地域における検討状況等を勘案するための期間を置き、令和3年度(2021年度)に決定する。

※美幌については、新型コロナウイルス感染症対策の影響に伴う地域の検討状況等を勘案し、令和3年度(2021年度)に決定する。

オホーツク東学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減	
学区内中卒者数	503	510	494	439	500	464	466	482	▲ 21	+ 43	
対前年増減		+ 7	▲ 16	▲ 55	+ 61	▲ 36	+ 2	+ 16			
網走市中卒者数	(276)	(306)	(269)	(238)	(256)	(247)	(252)	(259)	▲ 17	+ 21	
対前年増減		+ 30	▲ 37	▲ 31	+ 18	▲ 9	+ 5	+ 7			
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計					○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		清里の協力校	
単 網走南ヶ丘	4		4	5							
網走桂陽	2	商 2	4	39							
女 満 別	1		1	30	普▲1						
(*東藻琴)		(農1)	(1)	(15)	[農▲1]						
*新設校				総+1							女満別・東藻琴の両校舎を使用
総 斜 里	2→1		1	8							R 2入選 2次募集後学級減
地 清 里	1		1	8							
5校	10→9	2	11	90	普▲1、〔農▲1〕 総+1						

オホーツク西学区高校配置計画

区 分		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数		476	456	431	425	399	397	416	413	▲ 63	▲ 12
対前年増減			▲ 20	▲ 25	▲ 6	▲ 26	▲ 2	+ 19	▲ 3		
紋別市中卒者数		(144)	(157)	(142)	(142)	(126)	(123)	(139)	(145)	+ 1	+ 3
対前年増減			+ 13	▲ 15	± 0	▲ 16	▲ 3	+ 16	+ 6		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度 (2024～2027年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
単 遠 軽	5		5	37						<ul style="list-style-type: none"> ○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○地域連携特例校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要（遠軽） 	興部、雄武の協力校
紋 別	3	商 1 工 1	5	75							
地 興 部	1		1	25							
地 雄 武	1		1	16							
中高 湧 別	2		2	21							
5校	12	2	14	174							

十勝学区高校配置計画

区 分		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数		2,960	2,862	2,851	2,889	2,862	2,758	2,748	2,760	▲ 200	▲ 129
対前年増減			▲ 98	▲ 11	+ 38	▲ 27	▲ 104	▲ 10	+ 12		
帯広市中卒者数		(1,345)	(1,276)	(1,320)	(1,320)	(1,358)	(1,321)	(1,322)	(1,364)	+ 19	+ 44
対前年増減			▲ 69	+ 44	± 0	+ 38	▲ 37	+ 1	+ 42		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見直し		概要	
	普通	職業	計								
帯広柏葉	7		7	0	普▲1			○4年間で2～3学級相当の調整が必要			
単 帯広三条	6		6	0				○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内及び帯広市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要			
帯広緑陽	4		4	1				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要			
帯広工業		工 4	4	0				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要			
帯広農業		農 5	5	6				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特別校の導入の検討が必要			
*帯広南商業		商 5	5	4							
単 音 更	4→3		3	13						R 2入選 2次募集後 学級減	
芽 室	4		4	0							
幕別清陵	3		3	24							
上 士 幌	2		2	33							
*士 幌		農 2	2	25							
総 清 水	4→3		3	32						R 2入選 2次募集後 学級減	
中高 鹿 追	2→1		1	12	普+1 (計画変更)					R 2入選 2次募集後 学級減	
更別農業		農 2	2	43							
大 樹	2→1		1	5						R 2入選 2次募集後 学級減	
中高 広 尾	2		2	34							
総 池 田	2		2	35							
本 別	2→1		1	12	普+1 (計画変更)					R 2入選 2次募集後 学級減	
足 寄	2		2	18							
19校	46 →41	18	59	297	普▲1 普+2						

釧路学区高校配置計画

区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～ 2027)年まで の増減	令和6～9 (2024～ 2027)年まで の増減
学区内中卒者数	1,878	1,769	1,815	1,790	1,657	1,627	1,585	1,522	▲ 356	▲ 268
対前年増減		▲ 109	+ 46	▲ 25	▲ 133	▲ 30	▲ 42	▲ 63		
釧路市中卒者数	(1,360)	(1,295)	(1,337)	(1,336)	(1,210)	(1,203)	(1,181)	(1,137)	▲ 223	▲ 199
対前年増減		▲ 65	+ 42	▲ 1	▲ 126	▲ 7	▲ 22	▲ 44		
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
釧路湖陵	6		6	2				○4年間で6～7学級相当の調整が必要		阿寒の協力校
単 釧路江南	5		5	-1				○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の早急な検討が必要		
釧路商業		商 4	4	5				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
釧路工業		工 5	5	1				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
総 釧路明輝	5		5	-1				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特別校の導入の検討が必要		
フ *釧路北陽	5		5	0		単位制導入 [フィールド制転換]		○地域連携特別校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
釧路東	3		3	4						
地 阿 寒	1		1	24						
白 糠	2→1		1	15						R 2 入選 2次募集後 学級減
総 標 茶	3→2		2	16						R 2 入選 2次募集後 学級減
弟子屈	1		1	14						
厚岸翔洋	1	水 1	2	44						
*霧 多 布	2		2	34						
13校	34 →32	10	42	157						

根室学区高校配置計画

区 分		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	令和3～9 (2021～2027) 年までの増減	令和6～9 (2024～2027) 年までの増減	
学区内中卒者数		730	653	673	648	619	585	541	588	▲ 142	▲ 60	
対前年増減			▲ 77	+ 20	▲ 25	▲ 29	▲ 34	▲ 44	+ 47			
根室市中卒者数		(210)	(201)	(202)	(198)	(175)	(157)	(139)	(151)	▲ 59	▲ 47	
対前年増減			▲ 9	+ 1	▲ 4	▲ 23	▲ 18	▲ 18	+ 12			
学校名	令和2年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R 2 (2020) 欠員	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6～9年度(2024～2027年度) までの見通し			摘要	
	普通	職業	計									
単 根 室	3	商 2	5	23				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要				
別 海	3	農 1	4	44								
中 標 津	4	商 2	6	66	商▲1							羅臼の協力校
標 津	2→1		1	6	普+1 (計画変更)							R 2入選 2次募集後 学級減
*中標津農業		農 2	2	36								
中 高 ・ 地 羅 臼	1		1	0								
6校	13 →12	7	19	175	商▲1 普+1							

《全学区共通事項》
 令和3年度(2021年度)以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。